

# 令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

特定非営利活動法人ま・わ・た

## 1 事業の成果

昨年度同様、指定管理者制度に基づく「真岡市市民活動推進センターの管理運営」を団体運営の中核に据え、「民間支援組織として、営利を目的としない社会に貢献する活動を行っている個人や団体に対して、その活動や支援を行い、市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与することを目的とする」という設立目的のもと、事業を展開した。

また本年度はフードバンク事業の拡大を目指し活動を進め、拠点となる場所の確保につながった。福祉事業所運営事業では、「多機能型事業所そらまめ」の事業の円滑化を進めるとともに、自立に向けての支援体制の構築に取り掛かった。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
①市民活動に関する情報の収集と提供に関わる事業	A.各種イベントにおける広報	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	0
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
②市民活動に関する相談、活動促進のための調整に関わる事業	(B.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
③市民活動における人材育成に関わる事業	(B.に内包)	-	-	-	-	-
	(C.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
④市民活動における多様な主体間の交流・連携の促進及び支援に関わる事業	B.講師派遣事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	0
	C.市民活動団体との共催事業	通年	真岡市内	役員 1名	一般市民、市民活動団体等	0
			栃木県内	会員 2名	NPO法人等、一般市民等	0
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑤市民活動に関する調査研究及び政策提言に関わる事業	(D.に内包)	-	-	-	-	-

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
⑥市民活動の拠点に関する施設管理運営事業	D.真岡市市民活動推進センターの管理運営	通年	市民活動推進センター	職員 6名	一般市民、登録団体・個人ほか	16,584
⑦高齢者・障がい児者・子どもの福祉向上に関する事業	(C.に内包)	-	-	-	-	-
	E.フードバンクに関する事業	通年	真岡市内	会員 6名	一般市民	60
	(F.に内包)	-	-	-	-	-
⑧まち・むら活性化に関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑨文化・芸術・スポーツの振興に関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑩自然環境への理解及び環境保護の意識を高める事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑪災害発生時の救援及び被災地域の復興に資する事業	(A.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑫国際協力、国際交流事業	(E.に内包)	-	-	-	-	-
⑬男女がともに尊重し合う社会づくりに関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑭地域社会における学びの場づくりに関する事業	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑮障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービスならびに一般相談支援事業	F.福祉事業所運営事業	通年	真岡市内	職員 9名	障がい児者、一般市民	33,167
⑯その他この法人の目的を達成するために必要な事業	(A.に内包)	-	-	-	-	-

A.～E.については、次ページ以降で報告するものとする。

- A. 各種イベントにおける広報
- B. 講師派遣事業
- C. 市民活動団体との連携・共催事業
- D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営
- E. フードバンクに関する事業
- F. 福祉事業所運営事業

### 3 事業の詳細

#### A. 各種イベントにおける広報

本年度は新型コロナウイルスの影響により、各種イベントが中止となったため、本活動は実施されなかった。

#### B. 講師派遣事業

地域からの要請などにより、当団体役職員を講師として講座を開催し、市民活動を理解・促進するための一助とすることを目的に実施しているが、本年度は要請等がなかったため実施されなかった。

#### C. 市民活動団体との共催事業

市民に必要とされる団体を目指して、真岡市をはじめとした芳賀地域で活動している市民活動団体が実施する多様な事業に関わることで、多くの市民が市民活動の魅力に気づき、参加を促す契機とする。

令和3年度に実施した「事業継続計画(BCP)」に係るNPO法人の意識調査から派生し、宇都宮大学院の学生となった当会員による市民活動団体のBCPに対する研究・意識調査などに協力してきた。

##### 事業協力 実施概要

日付	事業名称	実施内容	協力先
通年	市民活動団体向けのBCPに対する研究並びにツール(様式例)の開発	昨年度実施したアンケート調査から派生した市民活動団体のBCPに対する研究・意識調査などへの協力	認定特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房、国立大学法人宇都宮大学

#### D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営

真岡市市民活動推進センターの指定管理期間3期目における事業年度4年目であり、センター開設から15年目を迎えた。15周年事業も実施しながら、市民活動・ボランティアの理解促進に努めた。また新型コロナウイルス感染症の影響により一部利用制限等も継続しながら、オンライン・対面を使い分け、事業を展開した。以下に事業の結果を示す。

##### 令和4年度 真岡市市民活動推進センター 指定管理業務 概要

###### 1. センターの利用等に関すること

- ・団体・個人登録の状況は、それぞれ219団体(前年比+3)、106名(前年比+1)であった。
- ・利用者総数は大きく変化はなかったが、ミーティングルームの貸し出しについて、コロナ禍以前並みの利用となった。
- ・活動展示の場である「こらぼひろば」については、ほぼ毎月実施することができた。
- ・ロッカー・メールボックスについては概ね利用いただいた。

<h2>2. 情報収集・提供</h2>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌「コラボ！」を、例年通り発行した。(1,000部)</li> <li>・新たに Instagram を加え、ウェブサイト、ブログ、SNS 等によるオンラインによる広報強化を図った。</li> <li>・「もおかインフォ」や「Weekly news」、広報もおか等においてセンター事業のお知らせや報告を継続して行ってきた。また、FM もおか等でも登録団体やセンターの活動を発信してきた。</li> <li>・利用者協議会総会はコロナ禍の現状を踏まえ、書面決議とした。また、5月の理事会で協議会の終了が決まった。以降、指定管理者である当法人が主体となり、利用者からの意見集約や情報交換を行うよう、進めてきた。</li> <li>・利用者アンケートを実施し、施設等の満足度の他、二宮移転後の利用状況や施設の拡充希望、センターの情報入手手段についての設問を追加した。また、活動状況や令和4年度の実施活動についての確認と団体の基礎状況についても回答いただいた。回答率は団体 32.7% (71/217)、個人 12.3% (13/106) だった。</li> <li>・関係機関との交流として、外部の研修や会議等への出席や事業への協力、取材などを行った。</li> </ul>
<h2>3. 相談等への対応</h2>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談対応は 54 件で、多くは登録団体からの相談 (41.0%) で、内容は「団体・人・活動」に関する相談が最も多かった (35.0%)。</li> </ul>
<h2>4. 研修会、講座の実施</h2>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民向け事業としては、「コラボ茶話」(全 8 回※1 回は中止)、「クリーンボランティア」(全 3 回)、「協働理解促進講座」(全 1 回)、「ボランティア体験事業」(通年)を実施した。</li> <li>・センター利用者や市民活動団体に向けた事業では、「利用者支援事業」(1 回※コラボまつり中止に伴い実施)、「スキルアップ講座」(全 8 回)、「ボランティアコーディネート講座」(全 4 回)を実施した。</li> <li>・普及・研究事業では、広報誌の発行の他、15 周年広報物の作成、「視察研修」(全 1 回)、「調査活動」(全 1 回)を実施した。</li> <li>・その他事業については、「ミーティングルーム大掃除」(全 1 回)を実施した。</li> </ul>
<h2>5. 交流促進のための事業</h2>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民・企業・行政へ投げかけられた事業としては、クリーンボランティアや協働理解促進講座が挙げられる。</li> <li>・利用者間の交流事業として、「こらぼ de ランチ」とその後継事業として「サロン・ド・コラボ」を実施した。</li> <li>・登録団体や個人の活動紹介の場である「こらぼひろば」では 8 回の展示を実施した。</li> </ul>
<h2>6. 関係機関との協力・連携に関すること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所管課の市民協働推進室と連絡調整を行いながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。特にボランティア体験事業「推し街ボランティア」を共催し、自治会や高校生をつなげることができた。</li> </ul>

- ・二宮分館とも連絡交換をしながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。また「真岡市二宮コミュニティセンター消防訓練」に参加し、コミュニティセンター各部署との有事の際の対応について共有した。
- ・その他、市役所各部署や市社会福祉協議会等の市内機関や県内の他の市民活動支援機関・行政等、県内外の市民活動団体とつながることで、情報の共有などを行うよう心掛けた。

#### 7. センター内庶務

- ・書類や物品管理について、台帳や規約をもとに管理を進めた。
- ・会計業務、給与・労務管理の健全運営のため、システム、人員の調整に努めた。
- ・施設内の環境美化と新型コロナウイルス感染対応のため、毎日開館直後の掃除・消毒を実施した。
- ・勤務シフトの管理を行い、法令に準じた勤務体制の構築を目指した。

## E. フードバンクに関する事業

本年も真岡市内でのフードバンク活動の促進のため、NPO 法人フードバンクうつのみやの協力を仰ぎながら活動を進めている。企業等との協働により、寄付ボックスの回収や入れ替えた防災備蓄品の提供などを受けた。また、個人や市民活動団体からの寄付も増やすことができた。

令和3年度に引き続き「フードバンクキャンペーン」を1回実施し、地域で困窮している方々への支援と活動の広報を行った。また、他のキャンペーンでは、益子町と益子町社会福祉協議会のイベントに参加・支援を行い、真岡市外でのフードバンク活動への理解促進に協力することができた。令和2年度よりイオン株式会社の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録しており、贈呈いただいた昨年度分の寄付も活用させていただいている。

さらに連携しているNPO 法人フードバンクうつのみやの開催する「第10回チャリティウォーク」にも参画し、一緒に寄付を集めることができた。また、1年を通し、フードバンク事務所兼倉庫の取得に向けて情報を収集し、旧リス村の施設の一部を確保した。

### フードバンク事業 実施概要

フードバンク運営	
日時	通年（随時寄付ボックスの回収及び食品の配布）
提供元	市内某スーパーマーケット、真岡市、FB うつのみや、個人、団体等
提供先	個人、市内各種施設、真岡市、真岡社協、キャンペーンおよび配布会
提供物	食料品（米、レトルト食品、カップ麺、調味料、野菜等）：3,450 kg

### フードバンクキャンペーン 実施概要

開催日	会場	配布数	備考
①10/29	真岡社協	78名分	真岡社協協力

### チャリティウォークへの協力 実施概要

開催日	開催地	実施内容	備考
10/8	宇都宮（市街地⇄大谷）	チャリティウォークのボランティアスタッフとして参画	集まった寄付のうち150,044円を受取る

## F. 福祉事業所運営事業

令和3年度から、当法人で事業を継承し、事業所の継続と組織基盤づくりの支援を行っている「多機能型事業所そらまめ」では、引き続き就業継続支援B型事業所「そらまめ食堂」と生活介護「アトリエファーベ」の2本の柱で事業を進めている。

令和4年度も引き続き、事業が円滑に進められるよう支援を行ってきた。その結果、安定した運営体制が整ってきたことから、今後は、本来の目的である自立に向けての支援についての検討を進めることとした。

### 多機能型事業所そらまめ（就労継続支援B型・生活介護）令和4年度概要

1. 個別支援計画と計画相談
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに支援ソフトを導入したことにより、利用者の支援計画の作成や記録の記入がしやすくなった。また、全支援員がタブレットにて計画や記録の確認ができるため、何か問題が起きた時に情報の共有が早くなった。</li> <li>・利用者ごとの相談支援員とは、日中支援以外の事で問題が起きるとすぐ話し合える体制づくりができていたので心強かった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">担当…サービス管理責任者・主任支援員</p>
2. そらまめ食堂・そらまめ工房（就労継続支援B型）の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂班、工房班ともそれぞれの強みを活かした支援を心がけた。</li> <li>・アトリエファーベ（生活介護）でデザインされた作品を工房班で加工し店頭で販売する流れを作った。地域のお店（SOWACAFEと豆三）での施設外就労は3名に増えた。土曜日のメニューを地元のお店「みはなや」とコラボし「みはなやランチ」として提供し始めた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">利用者数：13名 担当…目標工賃達成支援員・作業指導員・生活支援員</p>
3. アトリエファーベ（生活介護）の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者それぞれの日課が安定してきたことにより、日課以外の行事や避難訓練なども落ち着いて参加できるようになった。アート制作では、真岡市のまちづくりプロジェクトが作った市のドックラン会場の看板づくりを請け負うなど、様々な外部団体とタイアップが目立つ年だった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">利用者数：5名 担当：生活支援員・看護師</p>
4. 余暇活動・生活支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にそらまめ食堂・工房（就労継続支援B型）の利用者からなる「利用者自治会」はコロナが落ち着いて来たため、少しずつ活動を再開し、那須岳登山やボードゲーム大会などを利用者自ら企画し運営することができた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">担当：自治会担当職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の創作の場である「そらまめ塾（毎週火曜日午後）」では、参加者が制作した作品が県の障害者芸術祭（ビューイング展2023）に出展し全員が入選。うち2名が審査委員賞を取った。講師：黒田太郎氏</li> <li>・「利用者の健康・衛生」については、健康診断やコロナウイルスへの感染対策などを通して改めて健康について意識づけすることができた。</li> </ul>

<p>また嘱託医と看護師で利用者の健康について毎月検討会を開催した。</p> <p style="text-align: right;">担当：看護職員</p> <p>・「利用者のご家族との関わり」については、昨年に引き続き連絡帳を用いて家庭と事業所のやり取りを大切にしました。</p> <p style="text-align: right;">担当：生活支援員</p> <p>・「危機管理」については、それぞれの活動、設備等での事故・ヒヤリハット報告を徹底し、課題の抽出に努めた。「風水害対策計画」を作成した。</p> <p>避難訓練を生活介護は毎月、B型は半年に一度行った。</p> <p style="text-align: right;">担当：生活支援員</p>
<p>5. 食堂運営</p> <p>・商工会主催事業 Moka1 グルメググランプリに参加し「お持ち帰りおねえさん」を真岡市に広めた。</p> <p>・女子高販売については、やはりコロナ禍の影響で実施が難しく中止となる。</p>
<p>6. 職員研修</p> <p>・年間 10 回の研修に延べ人数 24 名職員が参加した。特徴的だったのは、障害者アートの著作権問題や虐待防止、障害平等研修など権利擁護に関連する研修が多かった。また、職員全員が何かしらの研修に参加した。</p>
<p>7. 地域活動・外部団体との協働</p> <p>・図書館プロジェクトでは、真岡女子高 JRC 部の生徒が中心となり、子どもたちと一緒に手話や点字などを使ってラスボスから姫を助けるというロールプレイングを楽しんだ。</p> <p style="text-align: right;">担当 4 人（うち 2 名利用者）</p> <p>・こども食堂（まめっこ食堂）を年間 24 回開催し、赤い羽根共同募金おうえんプロジェクトで募金活動を行い全国から 183,609 円のお金が集まった。</p> <p style="text-align: right;">担当：成田</p> <p>・その他の外部団体との協働ではきょうされん、KTU（県内の 10 か所の事業所が集まり自主研修をする集まり）、真岡商工会、とちぎリトルベビーサークル、真岡市社協、もおかまちづくりプロジェクト、真岡女子高 JRC 部、TAM 会議 などとたくさんの取り組みができた。</p>
<p>8. そらまめ建設委員会</p> <p>・現在の建屋の老朽化と狭さで、3 年以内の新しい施設への移転を目指し、令和 4 年より「そらまめ新施設建設委員会」が発足した。毎週水曜日に理事長、設計士、管理者が集まり移転先の候補、設計の検討をしている。</p>